会員の皆様にお聞きしました

新南陽の景況感

監修・分析／マサエンジニアリング 代表
中小企業診断士　佐伯　昌之　氏

調査概要

調査対象期間　2020年7月～9月（現状）における景況感と、10月～12月（今後）における景況見通し

調査対象　新南陽地域の企業104社

調査方法　商工会議所経営指導員等職員の巡回相談時に調査票回収

調査項目　「業況」、「売上高」、「採算」、「仕入単価」、「従業員」、「設備」、「資金繰り」

産業全体

●依然として全ての業種で業況DIはマイナス値、先行きはプラスに転じる業種もあるが、慎重な見方が続く。

7月～9月期の業況DIの全産業の合計値は▲87．3となり、前期調査（4月～6月期）よりもマイナス幅が6．8ポイント縮小した。山口県中小企業景況調査結果では製造業、建設業はマイナス幅が拡大しているが、新南陽地域では、サービス業、建設業、運輸業の3業種の業況DIが前期に比べてマイナス幅を縮小しており、マイナス幅が拡大した業種はない。

今後3カ月の先行き見通しでは、サービス業、建設業、運輸業の3業種はマイナス幅が拡大する数字を示している。対して製造業、飲食・宿泊業、保険業は改善する数値を示している。特に製造業、保険業はDI値がマイナスからプラスに転じている。山口県中小企業景況調査結果は製造業、建設業、小売業はマイナス幅を縮小しており、マイナス幅が拡大した業種はない。

新南陽地域は、山口県中小企業景況調査と比べると、7月～9月はマイナス幅が拡大した業種が無く、回復基調であったが、今後の見通しでは、山口県中小企業景況調査はマイナス幅が拡大する業種は無くなり、回復が見込めるのに対して、新南陽地域ではマイナス幅が拡大する数値を示している。

全国的には、コロナ禍の影響長期化により、売り上げ回復の見通しが立たない中、助成金等の政策効果が剥落した後の急激な業績悪化が懸念（商工会議所LOBO調査9月）の通り、今後も先行きが不透明であり、慎重な見方が続くと思われている。

【卸・小売業】

設備DI、従業員DIを除く全ての項目を全ての事業者が悪いと回答。設備DIは全ての事業者が不足と回答されている。

一方今後3カ月の先行き見通しは仕入単価DIのマイナス幅は縮小、従業員DIは上昇（不足）している。

イベントの中止や観光客の減少の影響が大きいと報告あり。

【製造業】

業況DI、仕入単価DI、以外は前回の調査に比べてマイナス幅が縮小している。前回の仕入単価DIは今後の見通しで、下落すると全ての事業者が回答されていたが結果は悪化した数値を示している。

新型コロナウイルスの長期化で、国内外の需要の低迷が続いていると報告あり。

【サービス業】

業況DI、仕入単価DIは、前回の調査に比べてマイナス幅が縮小している。一方、売上高DI、採算DI、資金繰りDIのマイナス幅は拡大。従業員DIは前回に比べて不足が拡大している。

イベントの中止や、感染症拡大防止のため規制を緩めない企業があり、客足が戻らないと報告あり。

【飲食・宿泊業】

前回調査に比べて仕入単価DIと従業員DIがそれぞれ上昇（下落・不足）の回答がある。その他の項目は全ての事業者が悪いと回答。今後3カ月の先行き見通しは従業員DIが良好を維持、その他の項目は全てがマイナス値を縮小しているとの回答あり。

客足が戻らない、新規来店者が現れないと報告あり。

【建設業】

売上高DI、仕入単価DIが、前回の調査に比べてマイナス幅が縮小している。採算DI、設備DI、資金繰りDIのマイナス幅は拡大。

今後3カ月の先行き見通しは仕入単価DI、設備DI以外のマイナス幅は拡大している。

工事が予定の工期に始まらない、イベント中止の影響があると報告あり。

【運輸業】

業況DI、売上高DI、採算DI、仕入単価DIは前回に比べてマイナス幅が縮小、従業員DIはプラス幅が拡大している。設備DIは悪化（過剰）となった。今後3カ月の先行き見通しは、業況DI、売上高DI、採算DI、仕入単価DIはマイナス幅拡大、従業員DIはプラス幅が拡大、資金繰りDIはマイナス幅が縮小している。

新型コロナウイルスの影響で荷動きは鈍いと報告あり。

【保険業】

前回と比べてマイナス幅が拡大した項目は売上高DIのみ。マイナス値を示している業況DI、売上高DI、採算DIの3項目は、今後の見通しでは全て100％（全事業者が良好）と回答されている。

イベントや旅行が減少したため、傷害保険の件数が減少したと報告あり。

DI（景気判断指数）値とは？

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率をしめすものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI＝（増加・好転などの回答の割合）－（減少・悪化などの回答割合）

	全体		卸・小売業		製造業		サービス業		飲食・宿泊業		建設業		運輸業		保険業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
業況	-87.3	-70.0	-100.0	-100	-100.0	20.0	-83.3	-100.0	-100.0	-66.7	-60.0	-100.0	-69.2	-71.4	-100.0	100.0
売上高	-82.6	-75.0	-100.0	-100	-77.8	20.0	-85.7	-100.0	-100.0	-71.4	-60.0	-100.0	-57.1	-75.0	-100.0	100.0
採算	-76.5	-74.5	-100.0	-100	-60.0	20.0	-84.6	-100.0	-100.0	-75.0	-66.7	-100.0	-53.8	-71.4	-33.3	100.0
仕入単価	-52.0	-47.4	-100.0	-50	-42.9	-100.0	0.0	33.3	-50.0	0.0	-50.0	-50.0	-33.3	-100.0	0.0	0.0
従業員	64.3	73.3	0.0	33.3	42.9	66.7	0.0	33.3	100.0	100.0	100.0	60.0	80.0	100.0	100.0	100.0
設備	33.3	53.8	100.0	100	60.0	60.0	100.0	100.0	-100.0	0.0	-100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
資金繰り	-84.6	-85.2	-100.0	-100	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-75.0	-50.0	-100.0	-100.0	-33.3	0.0	0.0

･･･●●● 会員の声 ●●●･･･

【卸・小売業】

◆新型コロナウイルス感染症の影響で7～9月期は来場者数、特に観光客の減少が大きく、売上・利益とも前年同期比で減少。GoTo キャンペーンの実施によりマインドが好転し、9月のシルバーウィーク前後から客足が戻ってきてはいるものの、土産品の需要回復には時間を要すると思われ、10～12月も昨年を下回って推移するものと考える。
◆物産展の中止で売上減少。年末に向けて好材料が見当らず先行き心配される
◆コロナの影響が出始めた頃よりも悪くなってきている

【製造業】

◆新型コロナウイルスのワクチンもしくは薬が開発されるまでは、景況は現在の低位安定が続くと思われる。生産・出荷が上向くとすれば、中国向け輸出如何による。周南地区は装置産業が多く、装置を止めてしまうと影響（額）が大きい。その為、装置（プラント）を止めない為に新型コロナウイルス感染者を出さない事が経営の課題。
◆コロナ影響により需要が国内外とも停滞し、売上･利益とも前年対計画から落としたが、少し戻りつつあり。
◆従業員の年齢が上がり、人事が心配

【サービス業】

◆感染症が終息しなければ先行き見通しがつかず。
◆ GoTo キャンペーンが、どこまで影響が出てくるかで今後の業績も変動してくるかと思います
◆新型コロナウイルス感染症拡大防止における大企業の規則が厳しく、客足は全く戻らない状態。

【飲食・宿泊業】

◆売上は少し戻りつつあるが、利益確保にはまだ。コロナ対策のための設備にもお金がかかっている。給付金、補助金もあるが、適用されるかが問題。人材に関しては、リストラや閉店などニュースで取り上げられているが、山口県ではあまり聞かないので、人材不足に関してはこれからも問題になると思う。
◆新規来店者の減少、とにかく人が歩いていない。固定費が重く厳しい。
◆今秋は大型定修の関係で宿泊客の方は順調ですが、コロナのため人数は 1/2 になりました。

【建設業】

◆自動車関連生産量の落ち込みによる、素材産業の低迷により、鉄鋼、ウルタン等の弊社受注先不況のあおりを受けています。
◆新型コロナウイルスで悪化はしていないが工事が予定の工期に始まらず足ぶみになっている案件が多い。
◆職人不足による仕事の減少

【運輸業】

◆依然として新型コロナウイルス感染症の影響に伴う荷動きの鈍化が続いている中、営業活動の制限もあり、物流業としては固定費の負担が重くのしかかっている。しかしながらそこにチャンスもあると考え、情報収集の強化を図るとともに、顧客の BCP も考慮した提案の構築に注力していかなければならない。
◆コロナウイルスで業績が悪化した企業が多いなか、求人有効倍率は底を打った。行政での労働人口の確保と流出防止策が必要であると考える。
◆労働の状況…運送業の " 働き方改革 " がむずかしい。（人手不足）

【保険業】

◆ 8月単月は減少したが、それ以外は増加しておりコロナ等社会情勢の影響はもう少し先になるかと思っている。
◆海外旅行、イベントが中止になり、傷害保険の件数が減った。一方、火災保険の値上げの影響で収入保険料増。手数料（売上）も微増傾向にある。